2026年　フォーラム・ポーランド会議

クラクフ（Kraków）

――多くの文化と豊かな歴史の町、そしてアヴァンギャルドの町

日　時：　2026年11月28日（土）10:00～16:10
場　所：　駐日ポーランド共和国大使館タデウシュ・ロメル ホール
主　催：　フォーラム・ポーランド
協　力：　駐日ポーランド共和国大使館、ポーランド広報文化センター
人　数：　先着80名
＊申し込み順で収容上限人数に達しましたら、募集・登録を締め切らせていただきます。
参加費：　無料
言　語：　日本語

プログラム

9:30 受付開始
司会：平岩理恵（フォーラム・ポーランド事務局長、ポーランド広報文化センター）
10:00～10:10 開会の辞：白木太一（フォーラム・ポーランド代表、大正大学名誉教授）
10:10～10:30 歓迎の挨拶：コンラト・パヴリク（Konrad Pawlik）（駐日ポーランド共和国臨時代理大使）
10:30～10:40 記念撮影

午前の部 10:40～12:00
10:40~11:20 篠原琢（東京外国語大学大学院教授）「クラクフ、プラハ、ウィーン：近世から近代への三つの道」
11:20~12:00　西村木綿（名古屋外国語大学世界共生学科講師）「ポーランド・ユダヤ人の街としてのクラクフ」

12:00~13:00 昼食（ビュッフェ）、休憩

午後の部：　13:00〜16:10

13:00~13:40 芝田文乃（ポーランド語翻訳者、写真家）「クラクフ・アンダーグラウンド」

13:40~14:20 佐伯彩（別府大学文学部史学・文化財学科准教授）「ハプスブルク君主国領ガリツィアにとってのクラクフとは？」

14:20~14:40 ティータイム

14:40~15:20 関口時正（東京外国語大学名誉教授）「クラクフに強く関連づけられる事柄あれこれ」

15:20~16:10 記録映画『身近な日本（Bliska Japonia）』（Jacek Link-Lenczowski 及び Andrzej Kotkowski 監督作品 1995）を解説（関口時正）付きで紹介する。フェリクス・ヤシェンスキの遺した膨大な日本美術コレクションを収蔵、展示するためにアンジェイ・ヴァイダ、クリスティナ・ザフファトーヴィチ夫妻が、京都賞の賞金をはじめとする私財、募金で集めた浄財を投じて建設した施設（現在の日本美術技術博物館 Manggha）ができあがってゆくプロセスを活写した貴重なドキュメンタリー。

登壇者紹介

コンラト・パヴリク（Konrad Pawlik）駐日ポーランド共和国臨時代理大使



1976年10月24日生まれ。2000年ワルシャワ経済大学（SGH）国際政治・経済関係学部卒業。2001年から2006年にかけ、オーフス大学オーフス・スクール・オブ・ビジネス（デンマーク）経営・国際ビジネス学部において研究員を務め、経済学博士（Ph. D.）取得。
2006年から2007年にかけポーランド共和国大統領府外交室に勤務。2007年外務省における外交・領事研修を修了。2008年から2010年にかけ外務省経済協力局にて三等書記官、続いて二等書記官として勤務。2010年9月から2012年1月にかけ経済協力開発機構（OECD）ポーランド政府代表部（パリ）にて一等書記官として勤務。2012年から2014年にかけ外務省東方局副局長、続いて同局長（参事官級）。
2014年には東方パートナーシップ外務大臣全権代表を兼任。
2014年12月から2015年12月にかけ外務省次官として東方政策、開発協力および在外ポーランド人社会・ポーランド人との協力を担当。
2016年2月から2018年1月にかけ駐ベラルーシ・ポーランド共和国大使。2018年から2022年にかけて外務省経済協力局副局長（一等参事官級）。
2023年より外務省アジア太平洋局にて朝鮮民主主義人民共和国およびポーランドの中立国監視委員会への参加に関する業務を担当。翌2024年2月から2026年9月まで同局副局長（公使参事官級）を務める。
2026年10月1日より駐日ポーランド共和国臨時代理大使。
使用言語：ポーランド語、英語、ロシア語、韓国語（日常会話レベル）

篠原琢（Taku Shinohara）　東京外国語大学大学院教授



1964年、東京生まれ。東京大学文学部（西洋史学専攻）、同大学院人文科学研究科修了。カレル大学哲学部（チェコ史研究科）でPhD.（歴史学）取得（Vytváření národně politické kultury v Čechách v letech 1848-1868 – Pokus o přemostění mezi sociální a kulturní historií）。編著書：『ハプスブルク帝国政治文化史―継承される正統性』（中澤達哉と共編）、昭和堂、2012年、『国民国家と市民社会』（立石博高と共編）、山川出版社、『「小さな国」からの問いかけ　チェコとスロヴァキア歴史と文化』、（長與進、中澤達哉と共編、績文堂出版、2025年）。主要論文：「中央ヨーロッパを思い出す」、塩川伸明・沼野充義・小松久雄編、『ユーラシ

ア世界　第五巻　国家と国際関係』、東京大学出版会、2012年、「『ユダヤ文化』の復興？–ポーランドにおける多文化社会の再構築の試み」、長谷部美佳・受田宏之・青山亨編著、『多文化社会読本』、東京外国語大学出版会、2016年、「『名前のないくに』-『小さな帝国』チェコスロヴァキアの辺境支配」、大津留厚（編著）、『民族自決という幻影　ハプスブルク帝国の崩壊と新生諸国家の成立』、昭和堂、2020年、”Defining the Public Sphere through Cultural Boundaries: Creating a ‘Czech’ National Society in Nineteenth Century Bohemia”, in: Yoko Aoshima (ed.), Entangled Interactions between Religion and National Consciousness in Central and Eastern Europe, Academic Studies Press, 2020.「中央ヨーロッパが経験した二つの世界戦争」、『岩波講座　世界歴史21、二つの大戦と帝国主義II』、岩波書店、2023年2月、pp.201-222.「第二次大戦を『過去に葬る』―現代史の見直しと冷戦体制の克服」、『歴史学研究』、No.1037（2023年7月）、「帝国を語り直す」、『思想　帝国論再考』No.1203 (2024年7月）、“From Galicia to Gdańsk: Fifteen Years of Travel through Central Europe”, in: Jacek Purchla: Connecting Worlds, Connecting People, Kraków, International Cultural Centre, 2024, pp. 283-294.

西村木綿（Yuu Nishimura）**名古屋外国語大学講師**



1984 年生まれ。京都大学総合人間学部卒業、京都大学人間・環境学研究科博士課程研究指導認定退学。博士（人間・環境学）。2012～2013 年にニューヨーク市立大学、2013～2014 年にワルシャワ大学に留学。日本学術振興会特別研究員を経て、現在は名古屋外国語大学現代国際学部グローバル共生学科講師。専門は近現代東欧ユダヤ史、ポーランド・ユダヤ関係史。主要業績：*Yiddishism and Creation of the Yiddish Nation: Proceedings of the International Workshop*（野村真理との共編、金沢大学、2017）、*Polish-Jewish Relations and Anti-Semitism in Interwar Poland: Proceedings of the International Seminar*（野村真理との共編、金沢大学、2018）、「誰が、なぜ、ポーランドのユダヤ史を書くのか」『ユダヤ・イスラエル研究』第 38 号（2024）、「〈ユダヤの氾濫〉とポーランド性の防衛――1922/23 年ヌメルス・クラウズス闘争を中心に」野村真理／井出匠編『中東欧の国民化と反ユダヤ主義』（人文書院、2027 年刊行予定）。

芝田文乃（Ayano Shibata）　ポーランド語翻訳者、写真家


foto: Edyta Dufaj

1964 年、神奈川県小田原市生まれ。筑波大学芸術専門学群卒業後、雑誌デザイナーとして働きながら、マヤコフスキー学院でポーランド語を学ぶ。訳書にスワヴォーミル・ムロージェク『所長』（2001 年）『鰐の涙』（2002 年）（以上未知谷）、スタニスワフ・レム『地球の平和』（2021 年）『電脳の歌』（2025 年）、ステファン・グラビンスキ『動きの悪魔』（2015 年）『狂気の巡礼』（2016 年）『火の書』（2017 年）『不気味な物語』（2018 年）（以上国書刊行会）、ヴィトルト・シャブウォフスキ『踊る熊たち』（2021 年）『独裁者の料理人』（2023 年）『厨房から見たロシア』（2025 年）（以上白水社）、共訳書にスタニスワフ・レム『高い城・文学エッセイ』（2004 年）『短篇ベスト 10』（2015 年）『火星からの来訪者』（2023 年）『捜査・浴槽で発見された手記』（2024 年）、レシェク・コワコフスキ『ライロニア国物語』（1995 年）（以上国書刊行会）などがある。

佐伯　彩（Aya Saeki）別府大学文学部史学・文化財学科准教授



1984 年、大阪府河内長野市生まれ。天理大学文学部卒業。奈良女子大学大学院人間文化研究科博士課程修了。2011-2013 年ヤギェロン大学留学。博士（文学）。八戸工業高等専門学校助教を経て、現在、別府大学文学部史学・文化財学科准教授。専門は近現代ハプスブルク史、ガリツィア史。特に、19 世紀後半のポーランド人議員の自治拡大にかかわる運動及び、ハプスブルク帝国政府との関係構築に関する政治文化について研究を進める。主要業績：「1868 年幻のガリツィア巡幸」『人間文化研究科年報』31 号、2016 年、「1880 年ガリツィア巡幸とドイツ・リベラルー『ノイエ・フライエ・プレッセ』の論評を中心にー」『寧楽史苑』63 巻、2018 年、「19 世紀後半、ポーランド人議員の政治志向ーフランチシェク=スモルカの場合ー」『寧楽史苑』67 巻、2022 年、「ガリツィア」『ハプスブルク史辞典』（丸善出版、2023 年）。

関口時正（Tokimasa Sekiguchi）　**東京外国語大学名誉教授**



1951年東京生まれ。1974年、東京大学文学部仏語仏文学科卒。1974～76年、ヤギェロン大学文学部にポーランド政府給費留学。1991～2013年、東京外国語大学ポーランド語専攻教員。著書に『白水社ポーランド語辞典』（1981共編）、『ポーランドと他者』（2014みすず書房），*Eseje nie całkiem polskie*（2016 クラクフUniversitas）、『ミコワイ・レイ氏の鏡と動物園』（未知谷、2021年）、『若きポーランド』（未知谷、2025年）。翻訳にコハノフスキ、ミツキェーヴィチ、スウォヴァツキ、プルス、ヴィトキェーヴィチ（子）、ゴンブローヴィチ、イヴァシュキェーヴィチ、ヘルベルト、ミウォシュ、レムらの作品、『ショパン全書簡』シリーズ（岩波書店、共訳）など。

白木太一（Taichi Shiraki）　**フォーラム・ポーランド代表、大正大学名誉教授**



1959年東京生まれ。早稲田大学第一文学部西洋史専修卒業。早稲田大学大学院文学研究博士課程単位取得退学。1986~89年、ワルシャワ大学歴史研究所留学。文学博士。大正大学文学部歴史学科教授を経て、現在大正大学名誉教授。専門は近世ポーランド史。主要業績：『近世ポーランド「共和国」の再建―四年議会と五月三日憲法への道』（彩流社、2005年）、「近世ポーランドにおけるヘトマン（軍司令官）職－その社会的役割の変遷を中心に―」井内敏夫編『ヨーロッパ史におけるエリート』（太陽出版、2007年）、「聖職者イグナツィ・クラシツキと18世紀後半のヴァルミア司教区」『鴨台史学』第9号、2009年、『［新版］一七九一年五月三日憲法』（ポーランド史叢書２　群像社、2016年）、「18世紀後半から19世紀初頭のワルシャワの作曲家と音楽会活動―近代ポーランド市民音楽形成に関する基礎的考察―」『国民音楽の比較研究に向けて―音楽から地域を読み解く試み―』（京都大学地域統合センター、2015年）、『現代ポーランド音楽の100年―シマノフスキからペンデレツキまで―』（ダヌータ・グヴィズダランカ著、重川真紀氏との共訳）、音楽之友社、2023年）、『ポーランド・バルト史（山川セレクション）』、（共著、山川出版社、2024年）、『ポーランドの歴史を知るための56章（第２版）』（共編著、明石書店、2024年）、『国民教育委員会―ヨーロッパ最初の「文部省」』（ポーランド史叢書10、群像社、2024年）。

参加申し込み方法

1. 参加登録

下記のGoogle Formからお申し込みください。
https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSe07bw0sD1LXV9hR3oBlXSlhIuMTIi4wkAFjSxsPnXKSXWDJQ/viewform?usp=sharing&ouid=104953885927524750575
参加を申し込まれた方にはEメールで返信いたします。お申し込みは、80名に達した時点で締め切らせていただきます。

・フォームの入力に対して、回答内容が自動返信されますので、内容をご確認ください。間違えた内容を送信した場合は、訂正が可能です。フォーム入力がうまくいかない場合は、恐れ入りますがtaichi@pep.ne.jp　にご連絡ください。

参加受付完了の返信がありましたら、そのメールをプリントアウトするか、スマホに掲示できる形で、当日ご参加ください。定員を超えた場合は、受付終了の返信をいたしますので、ご了承ください。

事前申し込みがないと大使館に入館できませんので、必ず事前申し込みを行ってください。当日はこちらで事前に登録した名簿で氏名の確認をさせていただきますが、大使館のセキュリティの関係上、必要に応じてスマホの返信メール等の確認をさせていただくことがあります。



会場：〒153-0062　東京都目黒区三田２丁目１３−５　駐日ポーランド共和国大使館　地下１F
Google Maps

２．寄付のお願い

今回、大使館内にて開催いたします会議につきましては、会場の運用規定に伴い参加費は無料（無償）とさせていただいております。つきましては、本会議の運営およびフォーラム・ポーランドの今後の活動を継続・発展させていくため、この機会に皆様からのご支援・ご寄付を募らせていただきたく存じます。

フォーラム・ポーランドは、2022年9月にNPOから任意団体に変更され、それに伴い、賛助会員制度も廃止されました。今後はご寄付のみによって運営されます。現在、ホームページの作成等により、数十万円の赤字の状態で出発しています。大変厳しい財政状況ですので、皆様のご支援を是非よろしくお願いいたし

ます。1口2,000円よりご協力いただけますと、大変ありがたく幸甚に存じます。皆様の温かいご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

今後の活動としては、引き続き毎年学際的なテーマで会議を行うとともに、会議録、ポーランド文学古典叢書、ポーランド史叢書、ポーランド声楽曲選集等を編纂、発行していく予定です。また、ホームページを通じて積極的に情報を提供していくと同時に、ポーランド関係諸団体との有機的なネットワークを構築してまいります。将来的には、ポーランド関係データベースの拡張、ポーランド図書館の設立、翻訳、通訳サポートの拡充などを図って行きたいと考えており、そのために書籍販売や寄付を募る活動を推進していきたいと思っております。

皆様の暖かいご支援、なにとぞよろしくお願いいたします。

３．寄付の方法

以下の方法で、クレジット決済での寄付をお願いしたいと思います。

クレジットカードでの決済方法

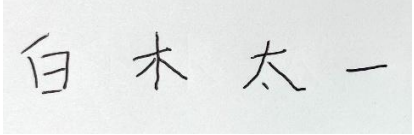
フォーラム・ポーランドのホームページ「BOOKS/DONATION」のページ下部の[寄付]をクリックします。

https://forumpoland.org/books_donation/

Syncableのページに移動しますので、画面のカード決済を選択し、寄付金額を記入してカード情報を打ち込んで下さい。カード決済は、１回につき1,000円から50,000円の範囲でご寄付額をお選びいただけます。１回につき50,000円を超えるご寄付は、銀行口座にお振り込みをお願いしております。

オンラインのカード決済ができない方は、事務局までご連絡ください。銀行口座に振り込む場合、下記の口座にお振り込みください：三菱UFJ銀行岡山支店
口座名義：フォーラム・ポーランド　口座番号：（普）0573439

- 大変申し訳ありませんが、フォーラム・ポーランドへのご寄付は税金控除の対象ではありません。



フォーラム・ポーランド代表
https://forumpoland.org/

Konferencja "Forum Polska" 2026

Kraków – miasto wielu kultur, bogatej historii i awangardy

P R O G R A M

Data: 28 listopada, godz. 10:00−16:10
Temat: Kraków– miasto wielu kultur, bogatej historii i awangardy
Miejsce: Sala im. Tadeusza Romera, Ambasada RP w Tokio
Organizator: Forum Polska
Współorganizatorzy: Ambasada RP w Tokio, Instytut Polski w Tokio.
Udział: bezpłatny

9:30 Otwarcie drzwi

Otwarcie konferencji (10:00−10:40)

Moderator: Rie Hiraiwa (Sekretarz Forum Polska, Ekspert Instytutu Polskiego w Tokio)
10:00～10:10 Wystąpienie przewodniczącego Forum Polska Taichi Shiraki (prof. emeritus UniwersytetuTaisho)
10:10～10:30 Wystąpienie powitalne Chargé d'affaires ad interim Rzeczypospolitej Polskiej w Japonii, Konrad Pawlik
10:30～10:40 Wspólne zdjęcie

Sesja przedpołudniowa (10:40～12:00)

10:40~11:20 Taku Shinohara（prof. Tokijskiego Uniwersytetu Studiów Międzynarodowych – TUFS）
Kraków, Praga, Wiedeń: Trojakie drogi prowadzące przez czasy nowożytne do epoki nowoczesnej.
11:20~12:00 Yuu Nishimura (wykł. Uniwersytetu Studiów Zagranicznych w Nagoi, NUFS)
Kraków jako miasto polskich Żydów

12:00~13:00 lunch

Sesja popołudniowa (13:00～16:10)

13:00~13:40 Ayano Shibata (tłumacz, fotograf）
Kraków „underground"
13:40~14:20 Aya Saeki（docent, Uniwersytetu Beppu）
Znaczenie Krakowa w dziewiętnastowiecznej habsburskiej Galicji

14:20~14:40 przerwa

14:40~15:20 Tokimasa Sekiguchi (prof. emeritus Tokijskiego Uniwersytetu Studiów Międzynarodowych – TUFS)
Wędrując po tematach skojarzonych priorytetowo z „Krakowem"

15:20~16:10 Prezentacja filmu pt. „Bliska Japonia” reżyserii Jacka Link-Lenczowskiego i Andrzeja Kotkowskiego z komentarzami Tokimasy Sekiguchiego. To cenny film dokumentarny ukazujący początki Muzeum Sztuki i Techniki Japońskiej „Manggha”, które powstało dzięki inicjatywie i darowiźnie m.in. Andrzeja Wajdy i Krystyny Zachwatowicz.